

静岡県水産振興基本計画(案)について

(令和 3 年度水産振興審議会資料)

令和 4 年 1 月

経済産業部水産・海洋局

静岡県水産振興基本計画(案)の位置付け

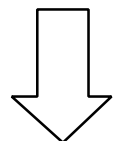
静岡県の総合計画(2018~2027)

(後期アクションプラン2022~2025)

<基本理念>

○富国有徳の 美しい“ふじのくに”の
人づくり・富づくり

分野別計画



経済産業施策の目的、
目標、手段を具体的に
示した計画

静岡県経済産業ビジョン(2022~2025)

分野編

就業支援編

産業革新編

商工業編

農業・農村編

森林・林業編

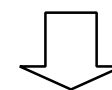
水産・海洋編

水産振興施策
の指針

静岡県水産振興条例(2019.3)

(第7条第1項)

知事は、水産業及び水産関連業並びに漁村地域の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、水産業及び水産関連業並びに漁村地域の振興に関する基本的な計画(以下「基本計画」という。)を定めなければならない。



今回策定する計画

(2022~2025)

静岡県水産振興基本計画

I 計画の基本的事項 (第7条第2項第3号に対応)

II 基本的な方針 (第7条第2項第1号に対応)

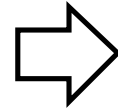
III 中長期的な目標及び計画的に
講ずべき施策 (第7条第2項第2号に対応)

<静岡県水産振興条例(第7条第2項)>

- (1) 水産業及び水産関連業並びに漁村地域の振興に関する基本的な方針
- (2) 水産業及び水産関連業並びに漁村地域の振興に関する中長期的な目標及び計画的に講ずべき施策
- (3) 水産業及び水産関連業並びに漁村地域の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

静岡県水産振興基本計画(案)の構成

現計画 (2019～2021年度)



次期計画 (2022～2025年度)

基本方向 1

水産業・海洋産業の高収益化・成長産業化

- 1 水産業の魅力の増大
- 2 新たな海洋産業の創造・育成

基本方向 2

静岡の海の資源の維持・増大

- 1 海・川の恵みの持続的な利用の確保
- 2 資源の維持・増大に向けた調査・研究の推進

1. 生産・流通・消費の好循環を生み出す水産振興対策の推進

水産(生産-流通-加工-消費)振興

2. 海・川の恵みの持続的な利用の確保

資源管理・資源増殖の推進

3. 次世代の漁業を担う人・組織づくり

担い手育成・人材確保

4. 水産資源の資源管理・資源増殖等を推進する先端的研究開発の推進

調査・研究開発の推進

成果指標

指標名	現状値(2020年度)	目標値(2025年度)
1 経営体当たり漁業生産額	(2019) 923万円	1,000万円
新規漁業就業者数	57人	80人
資源管理に取り組む魚種数 (新規)	累計14種	累計16種

1 水産業の魅力の増大

<現状>

- ・ 複数魚種で不漁が継続、漁業生産量は長期横ばいから減少へ
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化、水産業を取り巻く経営環境は厳しい状況
- ・ 漁業就業者の減少、水産関連産業の人手不足が深刻化

<課題>

- ・ 水産業者の所得・利益の向上につながる魚価向上対策が必要
- ・ 首都圏に依存した流通体制から、地場や近県への需要拡大が急務
- ・ 就業者確保に向け継続的な取組が必要

<対応方向>

- ① 県産水産物の高付加価値化やブランド化の推進
- ② 新たな流通体制の構築、首都圏以外への需要拡大
- ③ 長期にわたって水産現場で活躍できる就業者の確保・育成、漁業経営体や漁協の経営力強化



南駿河湾漁協の「波乗り鱈」



漁業高等学園のカツオ一本釣り実習

活動指標

指標名	現状値(2020年度)	目標値(2025年度)
県産水産物の新たな県外需要開拓件数 (新規)	0件	累計10件
漁協漁港食堂集客者数	49万人	80万人(毎年度)
漁業施設整備数	8施設	8施設(毎年度)
漁業高等学園卒業後の漁業就業者数	16人	15人(毎年度)
新規漁業士の認定者数	4人	4人(毎年度)

2 新たな海洋産業の創造・育成

＜現状＞

- ・駿河湾などの特徴ある海洋環境と多様な海洋資源の存在
- ・栽培漁業の要となる温水利用研究センター沼津分場の老朽化
- ・沿岸漁業資源の減少
- ・半世紀以上にわたる海洋観測データの蓄積

＜課題＞

- ・マリンバイオテクノロジーを核とした新たな海洋産業の創造や育成が必要
- ・量産実証施設も含めた種苗生産施設の再整備が必要
- ・データ活用による研究推進と産業育成が必要

＜対応方向＞

- ①技術開発拠点としての「量産実証施設」の整備
- ②オープンイノベーションに基づく外部研究者との連携による調査研究の実施
- ③海洋由来微生物など低・未利用資源の活用による産業創造
- ④研究の社会実装（企業の商品づくりや漁業者活動の支援）



新たな海洋資源の探索

活動指標

指標名	現状値(2020年度)	目標値(2025年度)
オープンイノベーション等を活用した研究開発件数 (新規)	5件	6件
研究成果の社会実装による水産物の高付加価値化実現件数 (新規)	3件	4件
オープンイノベーションに向けた海洋観測データの提供回数 (新規)	0回	12回

基本方向2 静岡の海の資源の維持・増大

1 海・川の恵みの持続的な利用の確保

<現状>

- ・ サクラエビ、キンメダイ、アサリなど、本県の主要漁業の対象種において不漁が継続し、漁業生産量が減少
- ・ 漁場環境が急激に変化

<課題>

- ・ 不漁原因の究明や対策が必要
- ・ より効果的な資源管理・増殖対策の推進が必要

<対応方向>

- ① 漁場環境調査の強化
- ② 資源管理制度の改善や新たな仕組みづくりの推進
- ③ 水産資源の増養殖の着実な推進
- ④ 生産力の確保・向上にむけた漁場環境の保全・改善



放流用のマダイ稚魚

活動指標

指標名	現状値(2020年度)	目標値(2025年度)
水産資源の維持・増大に向けた漁業者等の自主的取組件数 (新規)	46件	46件(毎年度)
マダイ・ヒラメ放流尾数	マダイ 128万尾 ヒラメ 41万尾	マダイ105万尾 ヒラメ32万尾

2 資源の維持・増大に向けた調査・研究の推進

<現状>

- ・ サクラエビ等の水産資源の減少、藻場の衰退、加工原料不足
- ・ 地球温暖化の進行、漁場環境の急激な変化
- ・ 資源管理制度の適正な運用や自主的管理の進展
- ・ 駿河湾などの特徴ある海洋環境と多様な海洋資源の存在

<課題>

- ・ 革新的な増養殖技術や加工技術の開発が必要
- ・ 水産資源の管理研究やビッグデータの利活用が必要
- ・ 微生物などの資源探索や機能性評価等に関する研究が必要

<対応方向>

- ① 大学等との連携によるキンメダイ、アサリ等の効率的な種苗生産技術開発
- ② ウナギの資源管理やサガラメ等の藻類の増養殖技術研究
- ③ 飼料原料や加工原料の再考や養殖業の生産性向上に関する研究
- ④ ビッグデータの解析などによる資源量評価や漁場予測技術の高精度化
- ⑤ 研究の社会実装（企業の商品づくりや漁業者活動の支援）



ふ化直後のキンメダイ

活動指標

指標名	現状値(2020年度)	目標値(2025年度)
水技研における外部資金獲得件数 (新規)	1件	2件
水技研における広報・広聴実施件数 (新規)	55件	60件

成果指標の見直し・新設

現計画		次期計画（案）		
指標名	(2021) 目標値	指標名	(2020) 現状値	(2025) 目標値
1経営体当たり漁業生産額	1,000万円	同左	(2019) 923万円	1,000万円
新規漁業就業者数	80人	同左	57人	80人
—	—	資源管理に取り組む魚種数 (新規)	累計14種	累計16種

成果指標の考え方

- ・漁業経営体の年間生産額1,000万円を維持 → 現行指標を継続
- ・水産現場で活躍できる就業者の確保、育成、定着 → 現行指標を継続
- ・水産資源の着実な回復と持続的な利用を確保するため、
資源管理に取り組む魚種数を拡大することを指標として設定 → 新設

活動指標の見直し・新設(1)

基本方向1

1 水産業の魅力の増大

現計画		次期計画(案)		
指標名	(2021) 目標値	指標名	(2020) 現状値	(2025) 目標値
水産物の新たな流通体制の構築・高付加価値化取組件数	5件	県産水産物の新たな県外需要開拓件数 (見直し)	0件	累計10件
漁協漁港食堂集客者数	80万人	同左	49万人	80万人
漁業施設整備数	8施設	同左	8施設	8施設
漁業高等学園卒業後の漁業就業者数	15人	同左	16人	15人
新規漁業士の認定者数	4人	同左	4人	4人

※見直しのポイント: これまでの首都圏需要に加え、「山の洲」経済圏を中心とした県外需要を開拓

活動指標の見直し・新設(2)

基本方向1

2 新たな海洋産業の創造・育成

現計画		次期計画（案）		
指標名	(2021) 目標値	指標名	(2020) 現状値	(2025) 目標値
—	—	オープンイノベーション等を活用した 研究開発件数（新規）	5件	6件
—	—	研究成果の社会実装による水産物 の高付加価値化実現件数（新規）	3件	4件
—	—	オープンイノベーションに向けた海洋 観測データの提供回数（新規）	0回	12回

※新設のポイント: 各種の研究成果の社会実装を通じた産業の創造と育成の着実な推進

活動指標の見直し・新設(3)

基本方向2

1 海・川の恵みの持続的な利用の確保

現計画		次期計画（案）		
指標名	(2021) 目標値	指標名	(2020) 現状値	(2025) 目標値
水産物の効果的な資源管理に向けた新たな取組	3件	水産資源の維持・増大に向けた漁業者等の自主的取組件数（見直し）	46件	46件
マダイ・ヒラメ 放流尾数	105万尾 32万尾	同左	(2021) 102.8万尾 26.2万尾	105万尾 32万尾

※見直しのポイント:これまで漁業者が自主的に策定・実践してきた資源管理の取組を維持していくことが重要なことから、指標として設定

2 資源の維持・増大に向けた調査・研究の推進

現計画		次期計画（案）		
指標名	(2021) 目標値	指標名	(2020) 現状値	(2025) 目標値
—	—	水技研における外部資金獲得件数（新規）	1件	2件
—	—	水技研における広報・広聴実施件数（新規）	55件	60件

※新設のポイント:外部研究機関との先進的な研究と社会還元を着実な推進

今後の予定について

